

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）
令和7年度報告書

学校法人 東京女子医科大学
女性医療人キャリア形成センター

 **Your Attention to Your Own Innovation!**

はじめに



東京女子医科大学 解剖学講座 神経分子形態学分野 准教授
同 ダイバーシティ環境整備事業推進室 室長
本多 祥子

2021（令和3）年度文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）に選定され、6年間の事業期間は早くも最終年度を迎えます。関係各所の皆様に多大なご協力をいただきながら「グローバルヘルスリーダー育成と更なる女性登用『YAYOIプロジェクト』」を全学体制で推進し、所期の計画を超える様々な取組みを進めることができましたことは大変有り難く、心より感謝申し上げます。

この事業は、本学の学祖吉岡彌生先生をはじめ偉大な諸先輩方の弛まぬ努力、さらに本学が120年以上にわたり培ってきた女性医療人活躍推進の精神的基盤があつてこそ成り立つものと考えております。この貴重な背景を十分に活かし、将来グローバルヘルスリーダーとして国際社会と連携し社会問題解決を目指す「彌生人（やよいびと）」を育てるための苗床として、本学は日本に唯一の女子医科大学としての重要な役割を担っていくこととなります。「YAYOI=Your Attention to Your Own Innovation！」のスローガンを胸に、「YAYOIプロジェクト」に関わるひとりひとりが自分自身をイノベートする（＝常に自分自身を変え成長させていく）端緒を切り開いていけるよう、強く祈念しております。

「YAYOIプロジェクト」では、様々な職種に従事する女性研究者の「研究意欲」を全力で後押ししています。「やってみたい研究・続けたい研究があるけれど、業務やライフイベント（育児・介護など）に押しつぶされて、このままでは研究への熱意が薄れそう」と不安な方は、是非「YAYOIプロジェクト」の各種支援内容から、少しでもお役に立てそうな支援を見つけてどんどんご活用ください。この「YAYOIプロジェクト」は、活躍する個々の女性研究者の皆様にスポットライトを当てることで、単なるキャリア形成だけでなくロールモデルとしての人格的成長もお手伝いしていると自負しております。例として「YAYOIプロジェクト」の各種支援を受けた本学女性研究者のインタビュー動画や成果報告動画を広く公開し、現役の女性准教授、講師、PI（研究室主宰者）などによる「ピアラーニング for 彌生人（やよいびと）」、メンターの指導により女性研究者のメンティが業績を挙げたペアを表彰する「彌生人（やよいびと）メンター・メンティ賞」で、優れた研究指導者の発掘も行っております。また、現役女性医師・研究者の育児・介護を支える男性医師・研究者を対象とした研究支援員制度、男女問わずご利用いただけるファミリーサポート「ちょこっと介護見守り支援」も、本学教職員の皆様にお役立ていただける支援となっています。この機会に、ご自身の「やりたいこと」そして「いまの環境」にちょっと思いを巡らせてみてはいかがでしょうか？

本学ならではの「YAYOIプロジェクト」が皆様の中に定着し、さらに全国の大学・研究機関などへも良い形で影響を与えることができれば望外の喜びです。

ごあいさつ



学校法人 東京女子医科大学 理事・名誉教授
同 女性医療人キャリア形成センター センター長
大澤 眞木子

学校法人東京女子医科大学は、学祖吉岡彌生先生により女子の医育機関として明治 33(1900)年に設立され、本年 126 周年を迎えます。創立以来、「女性の社会的・経済的自立」を目指し、社会貢献のできる専門職である女性医師・看護師を育成して参りました。本学の使命は学祖の理念である「至誠と愛」(きわめて誠実であること、慈しむ心(愛))の実践を根幹とし、「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」。すなわち、「生涯に亘り最良の医療を実践する知識・技能を修め、温かい心を持った人間性、社会に貢献する活動力、国際感覚を持つ女性医療人の育成」であります。

本学は文部科学省平成 28 年度科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)に採択され、①上位職への積極登用、②研究力向上・リーダー育成、③ダイバーシティ研究環境整備を中心に行って参りました。

令和 3(2021)年度には、より高い目標を掲げた文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択され、「グローバルヘルスリーダー育成と更なる女性登用『YAYOI プロジェクト』」の取り組みを開始致しました。『YAYO プロジェクト』の“YAYOI”は“Your Attention to Your Own Innovation!”であり、本学の学祖吉岡彌生先生のお名前を冠したものです。先端型の選定にあたりましては、平成 28(2016)年度より行ってまいりました特色型の取り組みが自主的に行われることを前提に、さらに高い目標をもって取り組むこととされました。本年度も YAYOI プロジェクトで①架け橋研究、②国際共同研究、③AI 研究等、理事長・学長の強いリーダーシップのもと、女性医療人キャリア形成センターを中心に全学で精力的に取り組んできました。様々な取り組みの成果を報告書にできたことを大変嬉しく思います。本事業をさらに推し進めて、女性医療人が生涯輝いて活躍できる社会を目指して活動してまいります。



東京女子医科大学 臨床検査科 特任教授
同 女性医療人キャリア形成センター 副センター長
佐藤 麻子

令和3(2021)年度より6年の事業期間で開始された文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」は早くも終盤戦に突入しました。「特色型」における3つの柱、「上位職への積極登用」、「研究力向上・リーダー育成」、「ダイバーシティ研究環境整備」を充実・発展させること、本学ならびに学外への波及効果となることを使命として、大澤眞木子センター長の下、本多祥子室長の牽引力、事務局の支援で本事業が展開されています。

「研究力向上・リーダー育成」では3つの先端的取組「架け橋研究」、「国際共同研究」、「AI研究」を支援してきましたが、令和6(2024)年度より領域を限定しない「グローバル架け橋研究」を支援しています。多くの女性研究者の応募をいただき、厳正な書類審査とWEB面接が行われ、令和7(2025)年度は3つの研究が採択されました。採択された女性研究者らは、着実に成果を挙げています。その他、「彌生人(やよいびと)メンター・メンティ賞」等の支援は継続されており、女性の「教授30%、准教授35%、講師40%」の目標を達成すべくサポートを行っています。

育児・介護等に対するセーフティネットを充実させ、研究環境の整備を行い、「至誠と愛」の理念の下にリーダーシップを持って国際的に活躍する女性を育成する本プロジェクトは、まさに本学の建学の精神「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」の具現・実践であります。

日本の女性医師数は年々増加し、医学界において女性医師は欠かせない人材となりました。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」を通して、本学の多様な人材が能力を発揮し、活躍し続けることが、日本の女性医師・研究リーダーの育成につながることを願っております。

目次

はじめに.....	1
ごあいさつ.....	2
I 事業概要.....	5
目標.....	5
本事業のための体制整備.....	6
実施概要.....	7
取組概要（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業 HP 掲載）... 10	
令和 7(2025)年度活動年表.....	11
II 事業報告① - 上位職への積極登用 -	13
女性教授割合の拡大状況.....	13
女性准教授・講師の新規採用および昇進昇格の促進.....	13
学長指名推薦による女性教授登用.....	16
オープンイノベーション講演会・交流会の実施.....	16
III 事業報告② - 研究力向上とリーダー育成 -	17
本学の研究力向上状況.....	17
基礎医学と臨床工学を繋ぐ架け橋研究の支援.....	18
バーチャル国際研究交流体系の構築および実用活性化.....	19
保健医療分野における AI 研究インターンシップ制度の構築.....	23
科研費申請支援.....	24
IV 事業報告③ - ダイバーシティ研究環境整備 -	25
本学の研究環境整備状況.....	25
学会参加時の託児費補助制度の新設および休日一時預かり保育制度の整備.....	25
実践的介護支援体制の構築.....	26
研究支援員制度における対象者範囲の拡大.....	30
V その他の活動.....	31
＜お問い合わせ先一覧＞.....	32

本報告書に記載されている所属・職位は実施当時のものです。

I 事業概要

目標

本学は、明治 33(1900)年に女性医療人（医師・看護師）育成と自立の精神に基づき設立された国内唯一の女子医科大学として、これまで様々な取組を行ってきました。平成 18(2006)年度には文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、病児保育と短時間勤務制度の創設によって優れた女性研究者の研究継続支援を実施しました。事業終了後も、男女共同参画推進局（現在の女性医療人キャリア形成センター）を設置し、院内保育所に加え本学独自のファミリーサポートシステムによるきめ細やかな育児支援、また短時間勤務制度を育児期のみならず自己研鑽にも活用できる制度として創設し勤務環境改善に努めてまいりました。しかしその一方で平成 27(2015)年時点の本学女性教授比率は 124 名中 25 名（20%）と少なく、キャリアを積んだ女性研究者が上位職で十分に活躍できる大学となるためには、さらに全学的な支援体制と強力な取組が必須と考えられました。そこで平成 28(2016)年「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択され、女性医療人キャリア形成センターに新設したダイバーシティ環境整備事業推進室が中心となり、女性教授比率を 30%に引き上げるための女性上位職登用支援、女性研究者のための研究環境整備、女性教職員数の多い部署での勤務環境改善を実施し、令和 2(2020)年 7 月には特命担当教授（将来の教授候補者）を含めた女性教授率 31.1%を達成しました。

そして令和 3(2021)年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、グローバルヘルスリーダー育成と更なる女性登用『YAYOI プロジェクト』を発足しました。6 年間実施してきた「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」のフレームに先端的取組を追加し、以下を達成することを本事業の目標としています。

- ・女性在职比率：教授 30%、准教授 35%、講師 40%
- ・新規採用、昇進・昇格において、後進女性研究者の指導能力や国際活躍業績等を入れる
- ・女性研究者の科研費等競争的研究資金の申請数増加、新規採択率の向上をめざす
- ・介護支援の充実をはかる

わが国唯一の女子医科大学として女性が活躍できる環境を整え、優れた研究業績を有する女性医療人に対し発展的な研究継続を支援し、グローバルヘルスリーダーへの強いモチベーションを持つ女性人材（「彌生人（やよいびと）」と呼称）を育成することで、医学研究・医療への貢献を実現するとともに、将来有望な女性医療人の上位職登用のチャンスを加速させ、女性医療人がより高い望みを実現すべく研究活動やキャリア形成に邁進できる体制づくりを本学全体で推進して参ります。



学祖 吉岡彌生(やよい)先生

Your Attention to Your Own Innovation !

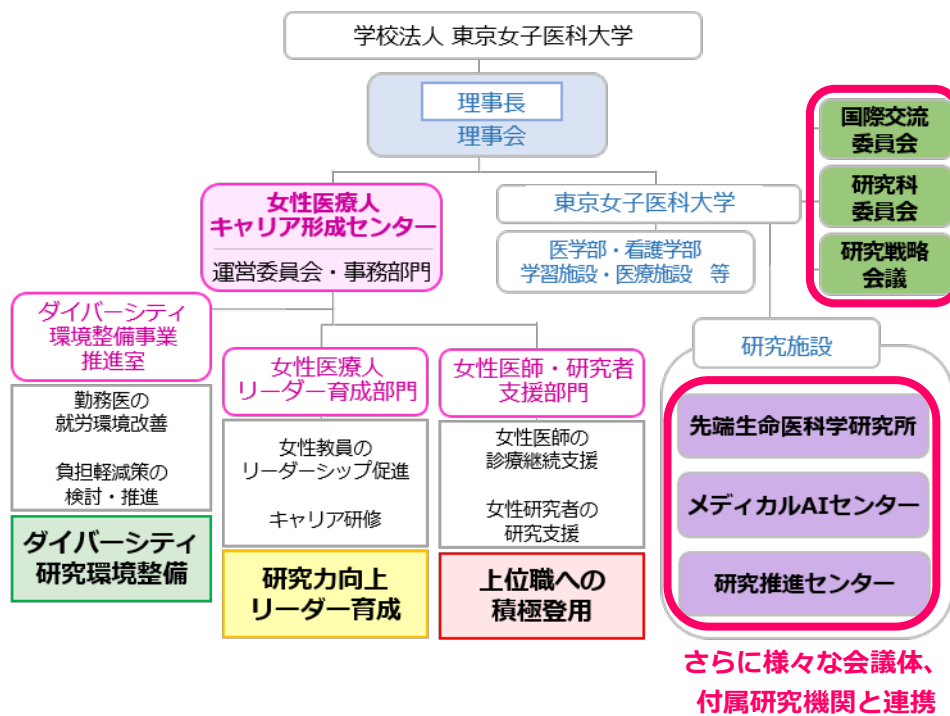


本事業のための体制整備

理事長・学長のリーダーシップのもと、事業の司令塔を「ダイバーシティ環境整備事業推進室」が担います。事業内容の具体的審議を「ダイバーシティ担当推進者会議」で行い、重要事項は女性医療人キャリア形成センターを通じ理事会で審議決定を行います。

女性医療人キャリア形成センターには、既に女性活躍推進法による行動計画の実施のために設置されている部門が複数あり、本事業の推進に際しては、それらのうち「女性医療人リーダー育成部門」ならびに「女性医師・研究者支援部門」と「看護職キャリア開発支援部門」が「ダイバーシティ環境整備事業推進室」と連携しつつ各部署が専門とする事業内容の推進を担当します。

「ダイバーシティ環境整備事業推進室」は毎月の「ダイバーシティ担当推進者会議」により女性医療人キャリア形成センター内の複数の部門、学内委員会、学内研究施設と密に連携し、事業全体をオーガナイズすると共に各部署の活動を（事務、広報、記録、成果の抽出など）多方面からバックアップすることで事業の確実な進捗を図ります。



実施概要

上位職への女性の積極登用 (=1)、そのための研究力向上とリーダー育成 (=2)、およびこれらを支えるダイバーシティ研究環境整備 (=3) の3つのテーマについて、6年間実施してきた「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」のフレームに更なる先端的取組を追加し、それぞれ事業主行動計画、ストラクチャー、プロセス、アウトカムを明確に設定しました(下図参照)。



(1) 上位職への積極登用の取組

①女性准教授・講師の新規採用および昇進昇格の促進：13 ページ

- ・次世代の女性教授候補者層(准教授、講師)の裾野を広げるため、学内女性研究者を対象としたキャリアアップのための実践的な個別アドバイスの実施
- ・現准教授や講師をロールモデルとした「ピアラーニング(※) for 彌生人(やよいびと)」の開催
※教授を中心としたロールモデルから直接経験談を聞き意見交換を行う場
- ・女性研究者＝メンティが高インパクトファクターの雑誌に筆頭著者として論文掲載を成し遂げた場合、指導に当たった研究者＝メンターと当該メンティのメンター・メンティペアを対象として、両者を表彰する「彌生人(やよいびと)メンター・メンティ賞」を設立

②学長指名推薦による女性教授登用：16 ページ

- ・学内外の優れた実績をもつ女性教職員を学長指名推薦により女性教授として登用

③オープンイノベーション講演会・交流会：16 ページ

- ・本学先端生命医科学研究所「バイオメディカル・カリキュラム」と連携し、医・工・理の架け橋研究等を紹介する「オープンイノベーション講演会」、新たな研究希望者と既に研究進行中の者とのマッチングの場「オープンイノベーション交流会」の企画・開催

(2) 研究力向上・リーダー育成の取組

①基礎医学と臨床工学を繋ぐ架け橋研究支援：18 ページ

- ・「グローバル架け橋研究支援」制度の実施
- ・「架け橋研究支援」採択者による成果報告動画の配信
- ・メーリングリストによる研究希望者への情報発信ならびにコミュニケーションツールによる研究者同士の意見交換の場の活性化

②バーチャル国際研究交流体系の構築および実用活性化：19 ページ

- ・「グローバル架け橋研究支援」制度の実施
- ・国際共同研究を推進する「国際共同研究指導者」による新たに国際共同研究を希望する者を対象とした相談会の開催
- ・女性研究者の国際学会参加・発表を奨励するための国際学会参加費等補助制度の実施
- ・国際共同研究を既に進行中の学内女性研究者を対象とした英語論文掲載料一部補助制度の実施
- ・海外の複数の大学との共同研究活性化を目的とした国際研究講演会・交流会の支援
- ・「国際共同研究支援」採択者による成果報告動画の配信
- ・メーリングリストによる研究希望者への情報発信ならびにコミュニケーションツールによる研究者同士の意見交換の場の活性化

③保健医療分野における AI 研究インターンシップ制度の構築：23 ページ

- ・「グローバル架け橋研究支援」制度の実施
- ・AI 研究を推進する「AI 研究指導者」がメンターとなり、新たに AI 研究開始を希望する者に対する「AI インターンシップ」の実施
- ・「AI 研究スタートアップ支援」採択者による成果報告動画の配信
- ・メーリングリストによる研究希望者への情報発信ならびにコミュニケーションツールによる研究者同士の意見交換の場の活性化

④科研費申請支援関連：24 ページ

- ・科研費セミナーの開催

(3) ダイバーシティ研究環境整備の取組

①学会参加時の託児費補助制度の新設および休日一時預かり保育制度の整備：25 ページ

- ・学会等参加時の託児費補助制度の実施
- ・院内保育所（学校法人東京女子医科大学附属病院院内保育所）における土日祝日を含めた一時預かりの安全性検証および利用者数のモニタリングの実施

②実践的介護支援体制の構築：26 ページ

- ・介護見守り支援（ちょこっと介護見守り支援）実施
- ・介護なんでも相談窓口（Google フォーム）実施
- ・介護講演会の開催

③研究支援員制度における対象者範囲の拡大：30 ページ

- ・平成 28(2016)年度（特色型）事業で構築した女性研究者対象の「研究支援員制度(※)」への育児中/介護中男性研究者枠の新設

※応募条件を満たす本学医学部の女性医学研究者が、研究活動上必要な補助業務を行う際に「研究支援員」を 1 名採用できる制度(支援員の人件費は女性医療人キャリア形成センターより拠出)

以上のダイバーシティ研究環境整備事業の様々な取組は、女性医師・研究者のみならず全教職員・学生も対象としています。今後もさらに個別の状況に合わせた多角的かつ適切な支援を実施し、広く社会に役立つモデルを構築していきます。

取組概要 (ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業 HP 掲載)

東京女子医科大学 (先端型)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ
実施期間：R3年～R8年

【特長】 Your Attention to Your Own Innovation !
 グローバルヘルスリーダー育成と更なる女性登用「YAYOIプロジェクト」

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)のフレームに更なる先端的取組を追加し、優れた女性研究者の育成と女性活躍を促進させるYAYOIプロジェクトを全学体制で推進する。

学祖 吉岡彌生(やよい)先生

【実施体制】

理事長・学長のリーダーシップのもと、事業の司令塔を「ダイバーシティ環境整備事業推進室」が担い、事業内容の具体的審議を「ダイバーシティ担当推進者会議」で行い、重要事項は女性医療人キャリア形成センターを通じ理事会で審議決定を行う。「ダイバーシティ環境整備事業推進室」が女性医療人キャリア形成センターの各部門、学内委員会、研究施設と密に連携し各事業の確実な進捗を図る。

さらに様々な会議体、付属研究機関と連携

【取組概要(目標)】

1. 上位職登用：学長のリーダーシップの元、**学長指名推薦による准教授・講師の昇進昇格、採用を促進**、優れた女性研究者を発掘する。
2. 研究力向上とリーダー育成：**オンライン国際研究交流体制を構築し、女性研究者の国際共同研究支援**を行う。異分野を繋ぐ架け橋研究支援、**AIインターンシップ制度、AI研究スタートアップ支援**により女性研究者の研究参画を促進する。
3. ダイバーシティ研究環境整備：オンラインを含む学会等参加時の**託児費補助制度、実践的介護支援を新設**する。**研究支援員制度の利用対象者を育児・介護中の男性研究者に拡大**する。

テーマ	上位職への積極登用	研究力向上 リーダー育成	ダイバーシティ 研究環境整備
アウトカム	教授 30% 准教授 35% 講師 40%	料研費等応募数 30%増 料研費等採択数 20%増 原著論文等 10%増	研究者の満足度向上 介護支援制度の利用 研究者の働き方改革
事業主行動計画	目標1 女性教授比率30%達成,維持	目標2 介護支援制度利用率0.6%	
中長期ビジョン	女性が活躍できる環境を整え、本学の理念「至誠と愛」の下に国際的に活躍し、リーダーシップを発揮できる女性を育成する		

【支援内容】研究力向上とリーダー育成の取り組みとして女性研究者を支援します

上位職への積極登用

- ①女性准教授・講師新規採用、昇進昇格
- ②学長指名推薦による女性教授登用
- ③オープンイノベーション講演会・交流会

**研究力向上
リーダー育成**

- ①架け橋研究支援
- ②バーチャル研究交流、国際交流実施
- ③AI研究インターンシップ制度

**ダイバーシティ
研究環境整備**

- ①託児費用補助制度
休日・病児保育利用者数モニタリング
- ②介護支援の実践的援助
- ③研究支援員制度の拡大(育児・介護中男性研究者)

◆研究支援

- ①架け橋研究支援
基礎医学と臨床工学の間を繋ぐ架け橋研究に関わる、もしくは新たにスタートを希望する女性研究者を支援
- ②国際共同研究支援
国際共同研究に関わる、もしくは新たにスタートを希望する女性研究者を支援
- ③AI研究スタートアップ支援
保健医療分野でのAI研究を新たにスタートする女性研究者を支援

◆補助制度

- ①学会等参加時の託児費補助
- ②国際共同研究における英語論文掲載料補助
- ③AI講習会、研修会参加費補助

◆ダイバーシティ研究環境整備

- ①院内保育所の休日一時預かり保育の整備
- ②ファミリーサポート体制を活用した“ちょこっと介護見守り支援”
- ③男性研究者のための研究支援員制度利用枠新設

長期継続のための「後進育成」体制の構築

「次世代国際交流指導者」「次世代AI研究指導者」「次世代架け橋研究指導者」

Your Attention to Your Own Innovation !
 女性研究者自らイノベーションを志し**キャリアアップの基盤**を構築
 研究資金の獲得能力向上により**経済的自立**を目指す
苗床を育む

寄附や競争的外部資金獲得のみに頼ることなく
 本学の産学連携における運営力を駆使しつつ
 企業や団体との契約に基づく確かな外部資金獲得を目指す工夫を実践

国際共同研究を活性化
 海外の複数の大学と共用できる
研究用デジタルプラットフォームを構築

【これまでの成果】

2016年 文部科学省 (JST) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型) 採択

特色型による取組により、女性教授比率が上昇
 2020年7月に目標である30%を達成
 <受賞歴>
 2017年 東京都女性活躍推進大賞
 2020年 日産財団 第3回リカジョ奨励賞

年度	教授	准教授	女性割合	女性割合	女性	男性	合計
2015.3	23	27	20.7%	25	96	121	121
2016.3	22	26	22.2%	26	91	117	117
2017.3	23	23	18.9%	23	99	122	122
2018.3	31	31	24.2%	31	97	128	128
2019.11	42	42	29.4%	42	101	143	143
2020.07	42	42	31.1%	42	93	135	135
2021.03	41	41	30.1%	41	95	136	136

【お問い合わせ】

機関名：学校法人東京女子医科大学
 所在地：東京都新宿区河田町8-1
 連絡先：03-3353-8112
 (内線30165,30166)
 cdc.bm@twmu.ac.jp
 HP：http://www.twmu.ac.jp/gender/
女性医療人キャリア形成センター

令和 7(2025)年度活動年表

実施日	内容
令和 7(2025)年度	
4/1	英語論文掲載料補助制度、国際学会参加費等補助制度 受付開始
4/1	国際共同研究指導者による個別相談会 受付開始
4/1	「グローバル架け橋研究支援」募集開始
4/18	第 42 回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
4/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
4/25	第 1 回介護サポート調整会議（オンライン）
5/15	介護サポート通信 Vol. 4 発行
5/19	第 43 回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
5/20	「彌生人メンター・メンティ賞」募集受付開始
5/23	AI・臨床統計無料相談会 開催
5/27	第 2 回介護サポート調整会議（オンライン）
6/11	「グローバル架け橋研究支援」面接審査実施
6/16	第 44 回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
6/17	「グローバル架け橋研究支援」選考会実施、採択者 3 名決定
6/21	「第 47 回未来医学研究会大会」共催（対面・オンライン）
6/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
6/26	第 3 回介護サポート調整会議（オンライン）
7/17	第 4 回介護サポート調整会議（オンライン）
7/18	第 45 回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
7/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
8/6	「彌生人メンター・メンティ賞」選考会実施、受賞者決定（2 組）
8/18	第 46 回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
8/21	第 5 回介護サポート調整会議(オンライン)
9/9	介護サポート第 5 回提供会員養成講習会（9/9、9/17）
9/19	第 12 回ピアラーニング for やよいびと開催（対面・オンライン）
9/19	第 47 回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
9/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
9/25	第 6 回介護サポート調整会議(オンライン)
9/29	第 5 回「グローバル架け橋研究支援」および第 4 回「彌生人メンター・メンティ賞」合同授与式開催
9/30	介護サポート・提供会員スキルアップ研修会
10/1	2026 年度女性研究者を支える男性医学研究者のための研究支援員制度応募受付開始
10/7	第 5 回介護講演会～介護体験談を聞こう！語ろう！～開催

実施日	内容
10/20	第48回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
10/22	第7回介護サポート調整会議（オンライン）
10/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
10/24	ファミリーサポート、介護サポート・女子医大祭出展（10/24、10/25）
11/17	第8回介護サポート調整会議（オンライン）
11/21	AI・臨床統計無料相談会 開催
11/21	第49回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
11/28	第13回ピアラーニング for やよいびと開催（対面・オンライン）
12/16	第9回介護サポート調整会議（オンライン）
12/19	第50回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
1/13	第10回介護サポート調整会議（オンライン）
1/19	第51回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
1/27	「2026年度研究支援員制度」プレゼン・面接審査（オンライン）
2/3	介護サポート・提供会員スキルアップ研修会
2/16	第11回介護サポート調整会議（オンライン）
2/16	「第2回先端生命医科学センター産学連携フォーラム」共催
2/20	第52回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
2/21	国際麻酔シンポジウム「日米女性臨床医が語り合う、医療キャリアの築き方」開催支援
2/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
3/12	第14回ピアラーニング for やよいびと開催（対面・オンライン）
3/16	第53回ダイバーシティ担当推進者会議（オンライン）
3/19	第12回介護サポート調整会議（オンライン）
3/24	AI・臨床統計無料相談会 開催
3/31	腎臓小児科主催 国際研究講演会開催支援（対面・オンライン）
3/31	介護サポート通信 Vol.5 発行

II 事業報告① - 上位職への積極登用 -

女性教授割合の拡大状況

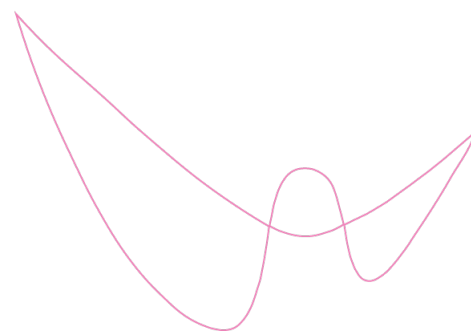
平成 28(2016)年に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」では、女性教授率 30%を目標に様々な取組を行い、令和 2(2020)年 7 月に特命担当教授(将来の教授候補者)を含めた女性教授率 31.1%を達成しました。本事業では特命担当教授を含まない「女性教授率 30%の達成と維持」を目標とし、OECD 加盟国に匹敵する女性教授比率の達成を目指します。

【教授の女性割合と在籍数】

		女性割合	女性	男性	合計
事業開始時	令和 3(2021)年 11 月	26.7%	36	99	135
事業開始後	令和 4(2022)年 5 月	27.2%	34	91	125
	令和 5(2023)年 5 月	29.8%	37	87	124
	令和 6(2024)年 5 月	30.5%	36	82	118
	↓				
	令和 7(2025)年 5 月	29.6%	34	81	115

女性准教授・講師の新規採用および昇進昇格の促進

女性教授比率の向上に加え、次世代の女性教授候補者層を厚くし裾野を広げるためには、女性准教授・講師を着実に育成していくことが不可欠です。優れた女性教員(女性研究者)に対し女性准教授・講師昇進昇格を積極的に実施し、女性教授比率 30%を今後も維持していくために、これまで 30%程度に留まっていた新規採用も含めた女性准教授比率、講師比率をそれぞれ 35%、40%とする目標を設定しました。本学では「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の一環として令和 2(2020)年度から教員評価制度が本格的に始動しており、適切な評価体制が整っています。また学祖 吉岡彌生先生の精神を受け継ぎ、社会のリーダーとしてより良い社会を作るために活動することを目指す女性医療人のための組織「女性医療人リーダー育成部門」の本科生・登録生制度構築により、層の厚い人材育成を行ってきたことから、本事業では女性准教授・講師に関する学長指名推薦枠を導入、さらに看護系教育・研究職についても(特任教授、特任准教授に相当する)女性上位職の枠を新たに導入することで、女性教授候補者の層を厚くし、女性上位職の裾野を拡大します。



【准教授・講師の女性割合と在籍数】

		准教授				講師			
		女性割合	女性	男性	合計	女性割合	女性	男性	合計
事業開始時	令和3(2021)年11月	26.8%	33	90	123	33.5%	52	103	155
事業開始後	令和4(2022)年5月	27.4%	32	85	117	34.2%	51	98	149
	令和5(2023)年5月	29.7%	35	83	118	35.7%	50	90	140
	令和6(2024)年5月	29.8%	34	80	114	34.6%	47	89	136
	令和7(2025)年5月	30.0%	33	77	110	33.8%	45	88	133

◆学内女性研究者を対象としたキャリアアップのための実践的な個別アドバイスの実施

「ピアラーニング for 彌生人（やよいびと）」演者である現准教授・講師をメンター、参加者をメンティとした個別アドバイスを実施しています。“女性研究者のキャリア形成”や“ライフイベントの乗り越え方”等、ピアラーニングの延長としてメンティの希望するテーマで身近なロールモデルであるメンターと科を越え自由に交流できる貴重な機会となっています。

◆現准教授や講師をロールモデルとした「ピアラーニング for 彌生人（やよいびと）」の開催

特色型で教授昇格を目的として行ってきたピアラーニングの「准教授・講師版」を「ピアラーニング for 彌生人（やよいびと）」と称し、様々な分野で企画・開催をしています。この「ピアラーニング for 彌生人（やよいびと）」のネーミングは、本学が輩出してきた多くのグローバルヘルスリーダーをロールモデルとし、これを目指す志を持つすべての女性研究者を「彌生人（やよいびと）」と総称することを由来としています。参加者からは、“女性研究者の皆さんの生の声を聞くことができ勇気づけられた”、キャリアの積み方や人生についてとても勉強になった”等の感想が寄せられました。

<ピアラーニング for 彌生人（やよいびと）実施実績>

	日付	講師	参加者
1	令和7(2025)年 9月19日	夏堀晃世非常勤講師／神経生理学、公益財団法人東京都医学総合研究所睡眠プロジェクト研究員	7名
2	令和7(2025)年 11月28日	坂井晶子講師／循環器内科学、保健管理センター 学生健康管理室	4名
3	令和8(2026)年 3月12日	齋藤直美助教／看護学部精神看護学、CNS（専門看護師）、博士（看護学）	18名



坂井講師ピアラーニングの様子

◆「彌生人（やよいびと）メンター・メンティ賞」の設立

優れた指導の結果、女性研究者＝メンティ（医師・看護師・non-MDを含む）が高インパクトファクターの雑誌に筆頭著者として論文掲載を成し遂げた場合、指導に当たった研究者＝メンター（医師・看護師・non-MDを含む）と当該メンティのメンター・メンティペアを対象として、両者を表彰する「彌生人（やよいびと）メンター・メンティ賞」を設立しました。

【令和7(2025)年度受賞者】（採択時の職位を記載）

- ・ メンティ：山田理紗助教／膠原病リウマチ内科学
メンター：勝又康弘講師／膠原病リウマチ内科学



（左から）勝又講師、山田助教

- ・ メンティ：菅野瑛梨助教／膠原病リウマチ内科学
メンター：田中榮一准教授／膠原病リウマチ内科学



（左から）菅野助教、田中准教授

学長指名推薦による女性教授登用

国内外において優れた実績のある女性教職員（医師以外の女性研究者も含む）の上位職登用を推進しています。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」において、これまでの「上位職への積極登用」の行動計画ではプラスファクターおよび特命担当教授任命制度により教授昇格者数が大幅に増加しました。女性登用実績の評価方法等も十分検討され既に体制は整っていることから、候補者があれば適宜推薦を実施し、女性教授として登用を進めています。

オープンイノベーション講演会・交流会の実施

リーダーシップを発揮し異分野を繋げて未来の医療を担う女性医療人「彌生人（やよいびと）」の育成には、医・工・理含めた異分野連携、異業種連携の場が不可欠です。本学の医学系・理工系融合研究施設である先端生命医科学研究所が主催する「バイオメディカル・カリキュラム」（以下BMC）は、学内のみならず外部の企業、研究所、病院、文系大学など異分野・異職種からの参加希望者を対象とした医学全般のリカレント教育コースであり、医学・生命科学と理工学の先端テクノロジーを融合した新しい先端医療の実現に貢献する幅広い人材育成と研究・開発の実践を目指しています。既に50年以上の歴史を持ち修了生は2000名を超え、医薬品・医療機器分野の他、化学・材料分野、食品分野、情報・通信分野、出版分野など様々な異分野業界の第一線で活躍する人材を数多く輩出しており、中には女性も含まれています。

本事業では現在活躍中のBMC修了生（女性を含む）によるオンライン講演会や交流会を実施し、広く学内外、国内外から女性研究者の参加を促すことで、女性研究者を中心としたコミュニティの形成、活性化を推進していきます。

◆第47回未来医学研究会大会

（女性医療人キャリア形成センター共催）

日時：令和7(2025)年6月21日（土）13:00-18:00

方法：ハイブリッド開催

（会場：東京女子医科大学弥生記念講堂）

参加者：約120名

◆第2回先端生命医科学センター産学連携フォーラム

（女性医療人キャリア形成センター共催）

日時：令和7(2026)年2月16日（月）13:30-18:15

会場：東京女子医科大学 先端生命医科学センター（TWIns）

参加者：約50名

第47回 未来医学研究会大会
東京女子医科大学が切り拓く未来医療

【特別講演】
上記一般講演を補完する形で、広く
学内外から参加を促すための講演。
（特定分野に特化した講演の提供）
「特別講演」の企画・実施
（「学内」が中心で、必要に応じて「学外」も活用）

【パネリスト】
「共創する未来医療 ～医療リテラシーの向上による、国民の健康増進～」

一般講演者 講演メンバー
講演者：東京女子医科大学 先端生命医科学センター 部長 田中 浩一
講演者：東京女子医科大学 先端生命医科学センター 部長 山崎 隆一
講演者：東京女子医科大学 先端生命医科学センター 部長 林 基弘

特別招待パネリスト 多岐谷 悦子
東京女子医科大学 先端生命医科学センター 部長 田中 浩一

2025年6月21日(土) 大会 13:00～18:00
情報交換会 18:10～20:00

大会長 清水 達也 (東京女子医科大学 先端生命医科学センター 部長、教授、未来医学研究会 会長)

参加費
未来医学研究会会費 無料
東京女子医科大学 学費 無料 資料 LINK-3会費/LINK-7会費 3,000円
お弁当 5,000円

ハイブリッド開催
会場会場 東京女子医科大学 弥生記念講堂
オンライン 2025年6月21日(土) 13:00～18:00
参加費 下記URLより申し込みください
<https://scholarsmeeting.jp/meeting/189/>

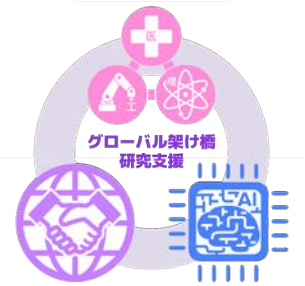
主催 一般講演者 未来医学研究会
共催 先端生命医科学センター 産学連携推進委員会/ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先進型) JYAYO17プロジェクト
協賛 株式会社エス・エー・リンク株式会社、リンク株式会社、リンク株式会社、リンク株式会社、リンク株式会社、リンク株式会社、リンク株式会社
お問い合わせ 未来医学研究会大会事務局 E-mail miral_aa@tamu.ac.jp

Ⅲ 事業報告② - 研究力向上とリーダー育成 -

本学の研究力向上状況

本学女性教職員の科研費応募件数は例年コンスタントに維持されております。本事業では、女性研究者の科研費等競争的研究資金の応募数 30%増、新規採択率 20%増、原著論文等 10%増を目標とし、令和 7 年度科研費において本学女性研究者の新規採択数は 30 件ののぼり、本事業採択時の令和 3 年度 22 件に対して 36%増加し、科研費採択件数 20%増を達成しました。

また事業開始から「架け橋研究」「国際共同研究」「AI 研究」における 3 分野の研究支援を実施していましたが、令和 6(2024)年度からは「グローバル架け橋研究支援」として領域を限定せず、保健医療分野での研究にすでに関わっている、もしくは新たにスタートを希望する女性研究者を支援しています。



【令和 7(2025)年度グローバル架け橋研究支援採択者】(採択時の職位を記載)

・野口玲講師／薬理学分野

-研究課題名「腹膜偽粘液腫の空間不均一性に打ち勝つ悪性化予測モデルの開発：ホルマリン固定標本からの空間プロテオームデータと病理画像と臨床情報の AI 統合解析を用いて」



・岡本祐子講師／膠原病リウマチ内科学分野

-研究課題名「関節リウマチ発症における PD-1 経路の探索」



・塚田弘子助教／乳腺外科学分野

-研究課題名「VHH 型抗体を用いた乳癌新規バイオマーカーの診断的意義と分子生物学的特徴の解明」



基礎医学と臨床工学を繋ぐ架け橋研究の支援

本学の先端生命医科学研究所では 20 年前より独自の細胞シート工学を開発し、これを幹細胞生物学と臨床工学の架け橋として治療・創薬・疾患研究に応用しています。更には細胞農業を含めた異分野融合研究も始まっており、今後の幅広い展開が期待され既に本学内の医学部学生や若手研究者の注目を集めています。看護学領域においても、基礎医学研究の知見に発したアイデアを予防や治療、ケアのための技術・材料・機器開発に応用することで新たな研究開発分野を開拓できる可能性は大きく、本事業では、このような基礎医学と臨床工学の間を繋ぐいわば医・工・理の架け橋研究をスムーズに開始できるスタートアップ支援などの体制を構築し、これに関わる若手女性研究者の増加を促進していきます。本学には臨床工学と医学の先端的研究を行う研究施設として先端生命医科学研究所、メディカル AI センター、研究推進センターがあり、基礎医学系研究室との長年の共同研究実績も数多く、架け橋研究の基盤を有しています。先端技術に関わる研究開発を通じて、女性グローバルヘルスリーダーに欠かせない倫理的・法的・社会的な課題についての知見を深めます。

◆「グローバル架け橋研究支援」制度の実施

架け橋研究スタートを希望する女性研究者を『グローバル架け橋研究支援金』により支援し、架け橋研究の促進と、架け橋研究に関わる若手女性研究者の増加を推進しています。(17 ページ参照)

◆研究支援採択者による成果報告動画の配信

採択者による研究成果報告動画を YouTube の東京女子医科大学公式チャンネルにて公開しています。URL : <https://www.youtube.com/@TokyoWomensMedicalUniversity>



◆メーリングリストによる研究希望者への情報発信ならびにコミュニケーションツールによる研究者同士の意見交換の場の活性化

研究希望者への情報発信ツールとして、「YAYOI プロジェクト情報発信メーリングリスト」を発足し、学内研究者からの登録を受け付けています。YAYOI プロジェクト主催セミナーや各種支援制度の案内の他、研究者に有用な外部セミナーや研究助成金情報等を配信しています。

また女性研究者の育成、研究力向上、共同研究の促進・活性化を目的とした研究者同士の「開かれた情報交換の場」として、Slack による「YAYOI コミュニティ」を開設、現在約 100 名の研究者が登録し、科を越えた交流の場となっています。

バーチャル国際研究交流体系の構築および実用活性化

これまで本学医学部・看護学部では国際交換留学が盛んに行われており、世界の多数の大学との国際留学協定のもとで多くの学生を送り出し、また受け入れてきました。COVID-19の影響による海外渡航困難な状況下でも、本学では国際交流委員会が中心となり、海外留学を目指す学生、研究者、医師、看護師を対象に、海外経験を有するまたは海外で活躍中の卒業生や教職員からデジタルプラットフォーム上で経験談を聞き相互交流するプログラム「アナザースカイ」を定期的実施していました。また看護学部においてはCOIL (Collaborative Online International Learning) を応用した国際教育プログラムが講義の一環として既実践されており、長年にわたり学生交換留学を実施してきた海外の大学とオンライン交流が盛んに行われています。

本事業ではこれら国際交流の効果を研究レベルに拡大し活用するため、海外の複数の大学との共同研究の活性化を目的とした国際研究講演会・交流会を支援し、情報やノウハウを相互に共有して研究効率を上げるためのデジタルプラットフォーム等のシステム構築を目指します。これにより学内の海外留学・国際共同研究経験のある研究者を中心とした新たな国際的研究交流の増加、国際共同研究の活性化を推し進め、さらに国際学会参加費・演題登録費や英語論文掲載料の一部補助を行い、研究力向上および上位職登用への促進を図ります。

◆「グローバル架け橋研究支援」制度の実施

国際共同研究にすでに関わっている、もしくは新たにスタートを希望する女性研究者を『グローバル架け橋研究支援金』により支援し、新たな国際研究交流の増加や国際共同研究の活性化を促進しています。(17 ページ参照)

◆「国際共同研究指導者」による新たに国際共同研究を希望する者を対象とした相談会の開催

「国際共同研究」を促進するため、研究支援採択者が指導者として登録され、後進育成の役割を担っています。国際共同研究経験者による個別相談会を実施しています。利用者からは「実りある時間でした」「貴重な時間でした」等の感想が寄せられています。本相談会をきっかけに相談者が研究指導者の研究活動に同行し、学会で成果報告を行った例もあります。

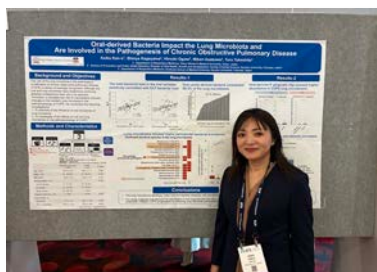
◆国際学会参加費等補助制度の実施

新たな国際的研究交流の増加、国際共同研究の活性化を推し進めるために、国際学会に参加し、筆頭にて発表した女性研究者に対して、学会参加費・演題登録費の一部補助を行っています。

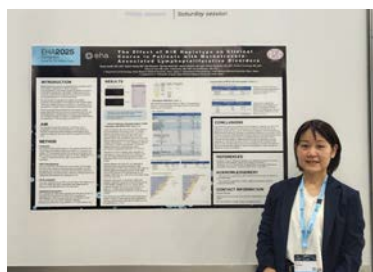
【令和7(2025)年度支援実績】(採択時の職位を記載)

神尾敬子助教／呼吸器内科学分野	
学会名	American Thoracic Society 2025 International Conference
田中紀奈准講師／血液内科学分野	
学会名	The European Hematology Association 2025 Congress

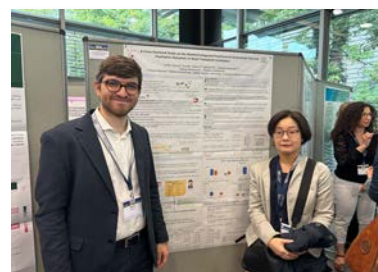
筒井順子公認心理士／精神医学分野	
学会名	European Association of Psychosomatic Medicine Munich 2025
野久保有沙後期研修医／循環器内科学分野	
学会名	European Society of Cardiology 2025



神尾敬子助教



田中紀奈准講師



筒井順子公認心理士

◆「英語論文掲載料補助制度」の実施

国際的な研究力向上および女性研究者の上位職登用の機会を増やすことを目的とし、国際共同研究の成果として国際学術雑誌掲載が決定した英文成果報告に対し、掲載料（論文・表紙掲載料、Web掲載料、オープンアクセス料等）の補助を行う制度を実施しています。

【令和7(2025)年度支援実績】（採択時の職位を記載）

槇原弘子講師／生化学分野	
タイトル	Early Structural Degradation of Dermal Elastic Fibers in Women with Mild Obesity without Parallel Transcriptional Changes
誌名	Journal of clinical medicine
小柳愛助教／足立医療センター病理診断科	
タイトル	A Case of False-Negative Results in the One-Step Nucleic Acid Amplification Assay for Sentinel Lymph Node Metastasis in Breast Cancer with Low Cytokeratin 19 Expression
誌名	Case reports in oncology
岩下華子准講師／公衆衛生学分野グローバルヘルス部門	
タイトル	Long-lasting insecticidal net ownership and malaria infection by socio-economic status: a cross-sectional household study in an area along Lake Victoria, Kenya
誌名	Malaria journal
尾身葉子講師／内分秘外科学分野	
タイトル	Discordance of intrinsic subtype between primary tumor and lymph node metastasis in breast cancer patients
誌名	Histology and Histopathology
伊藤亜由美助教／消化器内科学分野	
タイトル	Clinical Characteristics of Late-Onset (≥ 65 Years) Ulcerative Colitis: A Single-Center Retrospective Study
誌名	Gastroenterology Research and Practice

望月牧子助教／解剖学（顕微解剖学・形態形成学分野）	
タイトル	Hematopoietic stem and progenitor cell hierarchy is established by thrombopoietin-driven neonatal hematopoiesis
誌名	Stem Cell Reports
三木貴子助教／公衆衛生学分野	
タイトル	Effectiveness of mHealth Interventions Aimed at Promoting Physical Activity and Reducing 1 Sedentary Behavior on Work-Related Outcomes Among Workers: Systematic Review
誌名	Journal of Medical Internet Research

◆国際的に活躍する研究者等による「国際研究講演会・交流会」開催支援

「国際共同研究がしたいけど渡航できない」と諦めている女性医師等研究者に向けて、国際的研究交流や国際共同研究のきっかけづくりとして、また国内・海外で国際的に活躍する女性研究者等とのネットワークを構築し、新たな国際的研究交流の増加、国際共同研究の活性化を推し進めることを目的として、国際的に活躍される研究者を演者として招聘した講演会や交流会の開催に対し、開催支援（謝金支援）を実施しています。

【令和7(2025)年度支援実績】

麻酔科主催	
講演名	第2回国際麻酔シンポジウム
腎臓小児科主催	
講演名	カナダでの女性腎臓内科医・研究者としてのキャリア
講師	高野朋子先生 カナダ McGill 大学腎臓内科教授・Canadian Society of Nephrology President



第2回国際麻酔シンポジウム



高野朋子先生
「カナダでの女性腎臓内科医・研究者としてのキャリア」

◆研究支援採択者による成果報告動画の配信

採択者による研究成果報告動画を YouTube の東京女子医科大学公式チャンネルにて公開しています。URL : <https://www.youtube.com/@TokyoWomensMedicalUniversity>



◆メーリングリストによる研究希望者への情報発信ならびにコミュニケーションツールによる研究者同士の意見交換の場の活性化

研究希望者への情報発信ツールとして、「YAYOI プロジェクト情報発信メーリングリスト」を発足し、学内研究者からの登録を受け付けています。YAYOI プロジェクト主催セミナーや各種支援制度の案内の他、研究者に有用な外部セミナーや研究助成金情報等を配信しています。

また女性研究者の育成、研究力向上、共同研究の促進・活性化を目的とした研究者同士の「開かれた情報交換の場」として、Slack による「YAYOI コミュニティ」を開設、現在約 100 名の研究者が登録し、科を越えた交流の場となっています。

保健医療分野における AI 研究インターンシップ制度の構築

文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)の事業においては、本学卒の女性研究者が、令和 2(2020)年度の研究支援員制度を活用し AI 研究を開始するなど、学内では医療 AI 研究の機運が高まっています。AI 研究への若手女性研究者参画をこれまで以上に促進するため、本事業では学内外の研究者に AI 活用の基本を学修する機会や実際の AI 開発の現状を習得する機会を豊富に提供し、女性研究者の学内外における AI 研修、講習会参加を支援します。また医療 AI 研究に特化した学内研究施設であるメディカル AI センターにおいて、新たに AI 研究インターンシップ制度を構築し、学内外の様々な保健医療分野で活躍する女性研究者が AI 研究を開始できるようスタートアップ支援を行います。

◆「グローバル架け橋研究支援」の実施

AI 研究を開始する女性研究者を『グローバル架け橋研究支援金』により支援し、保健医療分野における AI 研究を増加・促進します。(17 ページ参照)

◆「AI 研究指導者」による「AI インターンシップ制度」の構築

「AI 研究」を促進するため、研究支援採択者が指導者として登録され、後進育成の役割を担い、本学「メディカル AI センター（以下、MAC）推進会議」にて、AI 研究指導者を含む AI 研究者による研究紹介・勉強会を実施しています。また本事業主催による AI・臨床統計無料相談会を定期開催し、多くの女性研究者が参加しました。

◆研究支援採択者による成果報告動画の配信

採択者による研究成果報告動画を YouTube の東京女子医科大学公式チャンネルにて公開しています。

URL : <https://www.youtube.com/@TokyoWomensMedicalUniversity>



YouTube
東京女子医科大学
公式チャンネル

◆メーリングリストによる研究希望者への情報発信ならびにコミュニケーションツールによる研究者同士の意見交換の場の活性化

研究希望者への情報発信ツールとして、「YAYOI プロジェクト情報発信メーリングリスト」を発足し、学内研究者からの登録を受け付けています。YAYOI プロジェクト主催セミナーや各種支援制度の案内の他、研究者に有用な外部セミナーや研究助成金情報等を配信しています。

また女性研究者の育成、研究力向上、共同研究の促進・活性化を目的とした研究者同士の「開かれた情報交換の場」として、Slack による「YAYOI コミュニティ」を開設、現在約 100 名の研究者が登録し、科を越えた交流の場となっています。

科研費申請支援

令和7年度科研費の本学女性研究者新規採択数は30件にのぼり、本事業採択時の令和3年度22件に対して36%増加し、本事業のアウトカムである科研費採択件数20%増を達成しました。

◆科研費採択率向上のための申請書レビュー実施・研究費セミナー開催

競争的研究費申請支援事業の一環として、本学URAによる調書改善支援を実施。また本学研究推進センターTRC室と共催で以下の研究費セミナーを開催しました。

【科研費セミナー】

- ・第1回科研費セミナー「科研費獲得への道」

日時：令和7(2025)年8月20日(水) 17:00～18:30(オンライン)

【その他、本学研究推進センターTRC室にて実施している研究費申請支援】

- ・URAによる調書改善支援&相談窓口
- ・採択調書閲覧システム
- ・書き方手引き、簡易ワークシート、調書作成チェックリスト
- ・アドバイザー制度
- ・100人論文プロジェクト(開催期間：令和8(2026)年1月19日～1月24日)



100人論文プロジェクトの様子

IV 事業報告③ - ダイバーシティ研究環境整備 -

本学の研究環境整備状況

平成 28(2016)年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)における様々な取組により育児支援を含む種々の研究環境整備を推進してきました。特に「女子医大・東京医大ファミリーサポート」による信頼度の高いきめ細やかな子育て支援は、全国に大きな社会的波及効果をもたらしています。

本事業では、更なる育児支援として学会参加時の託児費補助制度の新設および休日一時預かり保育制度の整備と、「女子医大・東京医大ファミリーサポート」を委託している特定非営利活動法人子育てネットワーク・ピッコロと連携した介護見守り支援サービス“ちょこっと介護見守り支援”を実施しています。また同じく特色型事業で構築した研究支援員制度の利用対象者範囲をこれまでの女性だけでなく男性にも拡大し、更なる研究環境整備を図ります。

学会参加時の託児費補助制度の新設および休日一時預かり保育制度の整備

若手研究者の良い発表機会である学会の地方会や研究会などは土日祝日に実施されることが多く、比較的規模の小さい学術集会では託児サービスが用意されていないことも多々あります。また、国際学会や在宅オンラインで参加可能な学会では託児サービスの利用が難しく、参加の障壁となっています。そこで本事業では、託児サービスのない学会(地方会・研究会)、研修会、国際学会など(オンライン含む)に参加する際の託児費用の補助、更に本学施設内の院内保育所における土日祝日を含めた一時預かり保育制度の整備を進めています。

◆院内保育所(学校法人東京女子医科大学附属病院院内保育所)におけるモニタリング調査の実施
保育園利用者の利便性と保育の安全性の向上のために院内保育所の ICT 環境整備を進めています。タブレット端末と専用ソフトを用いて、保育園の登降園時間管理や保育日誌等をデジタル化することで、利便性や事務作業効率を上げ、安全な保育を提供しています。

また、保育満足度とニーズ把握のための利用者アンケート調査を定期的に行い、状況に応じた保育の提供を検討しています。

実践的介護支援体制の構築

特色型では本学教職員がキャリアと介護を両立し活躍することができる環境整備を目指し、キャリアと介護の両立ハンドブック配布、介護相談窓口設置等に取り組んできましたが、令和3(2021)年度に本学全教職員を対象に実施した「介護に関するアンケート調査」の回答からは介護に対する不安を訴える声が非常に多く、同時に仕事と介護の両立を望む声が大多数である、といった現状が明らかになりました。また一方で「本学の介護支援制度を全く知らない」との回答も多数ありました。

本事業では介護支援制度利用者比率をこれまでの約0.3%から0.6%へ引き上げることを目標に、新たな施策と共に介護支援制度を周知した結果、令和7(2025)年度の本学の介護支援制度利用者比率は1.316%まで伸びました。今後はさらに引き上げ、女性研究者が安心して研究により専念できる環境を整備していきます。

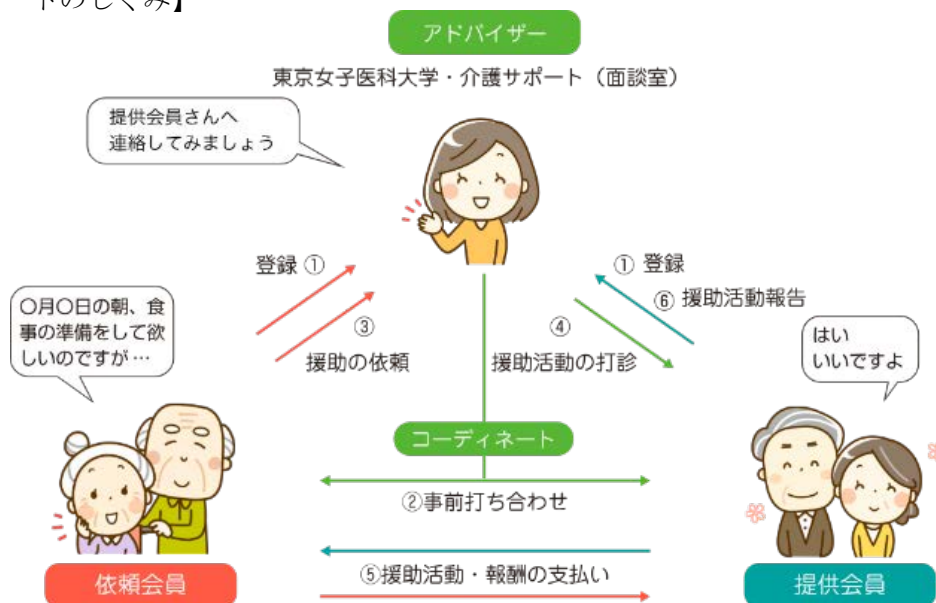
◆介護見守り支援サービス“ちょこっと介護見守り支援”の実施

「女子医大・東京医大ファミリーサポート」を委託している特定非営利活動法人子育てネットワーク・ピッコロのファミリーサポートのノウハウを活用した、新たな介護見守り支援サービス“ちょこっと介護見守り支援”を令和4(2022)年4月より開始しました。

この「ちょこっと介護見守り支援」は、国や自治体といった行政による介護支援とは異なり、まだ本格的な介護は必要としないけれど、独りにしておくのはご家族から見ると不安がある、という「ちょっとした見守り」を必要とされる女子医大教職員のご家族を対象に、例えばお食事の見守りや外出時の付き添い、話し相手などの「ちょこっと」した見守り支援を実施しています。

現在では23名の提供会員が誕生し、各提供会員の特性に合った役割分担で支援を行っています。また提供会員向けにスキルアップ研修会や茶話会を開催し、支援時の注意事項や情報共有を行っています。

【介護サポートのしくみ】



活動日	活動時間帯		時給
月曜日から金曜日	基本時間	9:00～17:00	1,000 円
	基本時間外	7:00～9:00 17:00～19:00	1,100 円
土・日・祝日	基本時間	9:00～17:00	1,100 円
	基本時間外	7:00～9:00 17:00～19:00	1,200 円

- ・提供会員が自宅を出てから帰宅するまでの時間（活動時間）が報酬額に加算されます。
- ・活動は午前7：00 から午後7：00 までです。
- ・最初の1時間を過ぎ延長した場合は延長料金を30分単位で算出します。
- ・必要な場合、交通費の実費をいただきます。
- ・年末年始はお休みとさせていただきます。（12月29日～1月4日）

《登録希望・お問い合わせ》
 東京女子医科大学・介護サポート
 TEL：03-5312-5206（直通）

院内保育所、子育てファミリーサポートと大学祭に出展



提供会員スキルアップ研修会の様子



スキルアップ研修・交流会のご案内

【研修テーマ】
活動事例検討と情報交換「サポートで大切にすること」

【講師】NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ 理事
自見 紀美の國 元施設長 丸山 安三氏

無料

申込

東京女子医科大学・介護サポート
会場：NPO法人子育てネットワーク 3F
〒162-8604 東京都目黒区河田町1-1 聖女子学舎3F
TEL：03-5312-5206
e-mail: kalggo-support.bm@tamu.ac.jp

令和8年2月3日（火）14:00～16:00

会場：東京女子医科大学 総合研究棟3階302会議室

受講申込書

受講者のお名前 _____ メールアドレス _____

ご住所 _____ 連絡先 _____

勤務先 _____

東京女子医科大学・介護サポート <https://www.piccolonet.org>

介護サポート通信

vol. 05

発行：東京女子医科大学・介護サポート（委託NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロ）
〒162-8666 東京都新宿区三軒茶屋 6-1 東京女子医科大学 巴女子学生会館3階
☎03-5312-5206 fax ☎03-5312-5207

3月31日 発行
2026

面談室に「図書コーナー」が誕生しました！～顔合わせ、お話し「ちょこっと」面談です～
介護サポート面談室の一角に、どんなでも利用できる図書コーナーを新設いたしました。
活動を応援して下さる有志の方々から寄せられた大切な書籍によって、このコーナーは始まりました。



「はっと」と書けるデザインブック
読書の最新情報も多く、「読書の支度はまだ難しいけれど、誰かの心が軽くなるきっかけになれば」という願いが込められています。
ご利用方法
面談室で実際に手に取って読んでいただけるほか、事務用を通した貸出も行っています。「まずは知ることから始めたい」という方も、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

書籍リスト

【認知症・高齢者の理解】

- 認知症世界の歩き方（著：夏 裕介）認知症世界の歩き方 実践編（著：夏 裕介 & amp; issue+design）
- なぜ、認知症の人は「家」に帰りたいのか？（著：香取 悠、橋本 幸典 著）
- ボクはいつか認知症のこと知った（著：長谷川 和夫・酒巻 雅子）
- 介護現場から生まれた認知症の人に伝わること（著：長谷川 和夫・酒巻 雅子）
- おとさんはIQ211（作：飯塚 蓮子／絵：西田 尚介）



【介護の実践・アドバイス】

- 親の入院・介護で迷ったとき、考えたいこと・お金のこと（著者：太田 直孝）
- 親の入院・介護で迷ったとき、考えるアイデア・考えたいこと（著者：工藤 広伸）
- 親が認知症？ 驚いて暮らす親の介護
- 長寿・お金のこと（著者：工藤 広伸）
- 介護現場の父に起こったこと（著者：ジェーン・スー）



- 「健康以下、介護未満 親のトリセツ（著者：カータン）」
 - お母さん認知症、お父さんは老人ホーム 介護と真ん中！ 親のトリセツ（著者：カータン）
 - キャリアプランをあきらめない 介護への歩き方（著者：森野 信行・森山 千賀子）
- 【支援技術・社会システム】
社会的弱者 孤立という病を地域でつなぐ方法（編著：西 智弘）
ヘルパーのための対人援助技術（編著：森野 信行・森山 千賀子）

第5回提供会員養成講習会 開催報告

「第5回提供会員養成講習会」を2日間にわたり開催いたしました。御出席による働きかけや新発見、関係各所からのご紹介により、12名受講。新たに9名の方が提供会員さんとして登録して下さいました。



- 講習会：「介護保険制度と高齢者理解を学ぶ」
- 講師：奈良美穂 氏（園コハシ 顧問）・小俣みどり氏 <講演内容に関する意見>
- 認知症についての知識が増え、とても有用だと感じた。
- 認知症の方の行動や考え方を理解しておくことで、落ち着いて対応できるといった、資料のエピソードがとても参考になった。
- 前編側面認知症の事例の基が心に残った。
- 家族の対応が大変参考になった。
- お立ち寄りいただくことを喜んでいただき、利用希望に、安心感を伝えながら寄り添えたらと思う。
- 講習会に参加することで、新しい世界を感じ出すことができました。

今回の講習会は、アンケート結果から全体的に非常に満足度が高かったことが確認できました。特に、講師の「分かりやすさ」と「今後の参加になるよ」が高く評価されました。
自由記述からは、認知症に関する具体的な事例や知識が参加者の心に深く残り、高齢者への配慮意識向上に繋がった様子がうかがえました。



9名全員から「非常に分かりやすく、参考になった」と極めて高い評価をいただきました。
読書の学び・特に「情緒」や「共感」といったコミュニケーションの基盤姿勢、福祉用具の安全性や適合性の重要性が再確認されました。受講者の声：「認知症への知識が増え、落ち着いて対応できる自信がわいた」「新しい世界を感じ出した」といった心強い感想が寄せられています。
今後の運営、運営側へのご意見を真摯に受け止め、安心安全に学べる環境を整えます。
次年度は皆様からの意見を反映させたいと考えています。既に提供会員でおられる方も、都合が合わなくて日じか受講できなかった方も第6回提供会員講習会でお申し込みお待ちしております。

第5回提供会員 修了式

今回は、12名の方が受講し、新たに9名の提供会員が誕生しました。



最終日には厚生労働省が主催に開催して下さりました。また、女性定年キャリア形成センター在籍者センター長に修了証をお渡しいただき、感謝状も出さされました。第5回提供会員講習会が終了して、新しく9名の方が提供会員として誕生し、提供会員講習会修了者と合わせて22名の提供会員となりました！！どうぞよろしくお願い致します。

令和7年度第1回スキルアップ研修会 開催報告

- 日時：令和7年9月30日（水）13:30から16:30
- 会場：東京女子医科大学総合研究棟3階 302会議室
- 講師：NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロ理事 小俣みどり氏
- 研修内容：【自分自身が援助される側だった〜どしどしはいつか〜考えたい〜】
～相互援助活動のやりがいと大切さ、配慮しなければならない点～
- 研修の様子：【自分自身が援助される側だった〜】という視点で大切に、相互援助活動のやりがいや配慮すべき点について学びを深めました。



単なるスキルの習得に限らず、相手の心に寄り添う「援助力」の重要性が繰り返し説かれました。ロールプレイングでは、支援を受ける側の不安や緊張を感じること、何気ない一言がいつか安心感につながる、といった大きな気づきを得る貴重な機会となりました。

女子医大祭/パネル展示及びブース出展

- 女子医大祭にてパネル展示 10/24,10/25 プース出展 10/25
- 今年も、初めての、保育所・ファミリーサポート・介護サポートという3団体で同じスペースでパネル展示をしたこともあり、たくさんの方々がお立ち寄りください、ごみになるお声掛けも頂戴しました。



令和7年度第2回スキルアップ研修会 開催報告

- 日時：令和8年2月3日（火）14:00～16:00
- 会場：東京女子医科大学 総合研究棟3階 302会議室
- テーマ：活動事例検討と情報交換『サポートで大切にすること』と交流会
- 講師：ファシリテーター：丸山 安三 氏・小俣みどり氏
(NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロ理事・理事長)



NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロの理事であり、福祉分野に半世紀携わり、現在も現場で活躍する丸山安三氏と、理事長の小俣みどり氏をファシリテーターに迎え、提供会員の声に寄り添いながら活動を行う、提供会員のスキルアップ研修を開催しました。
～交流会の様子～
冒頭は冒頭に活動している提供会員同士が顔合わせ、貴賓が登壇となりました。「こんな時どうしてる？」といった具体的な相談や、やりがいを共有する貴重な時間があり、信頼の輪が広がりました。今後は「援助が必要な人」と「援助したい人」をつなぐ場を大切にしていきたいという思いが、参加者の間の交流で語られました。
～Aさんご家族のエピソード（振り返り）～
「頼れる場所があるのは心強い」。介護サポートを通じて紹介された無職のAさんは、母の過労に長時間付き合うことが難しい状況にありました。現在は提供会員のBさんがそのサポートを続けています。
交流会では、Bさんの思いが聞かれました。かつては年齢やご主人の病気をきっかけに引退を考えたこともあったが、息子さんの「誰かに頼られることは本当にありがたいことだよ」という言葉に、そうだ、私は頼ってもらえることにこそ、日々のやりがいを感じていたのだと。
「必要とされる喜び」が自身の活力となり、それが溢れてAさんの安心を支える、そんな「支え合いの循環」こそが、この活動の本質的な価値なのだ、とBさんの確かな実践が語られました。

介護サポート面談室より ～「ちょこっと」介護のすすめ～

「完璧な介護より、ご機嫌さんの介護」～心のゆとり～
100点満点を目指して疲れてしまったり、ちょこっと手を抜いて、ちょこっと笑える時間を。そんな「心のゆとり」が大切。～ではどの様にすればいいことか？やりがちなものか？考えました！

【ゆとりを生む魔法の言葉：「いっしょに」】

- 指示を「お願い」に伝えるだけで、聞くはどスムーズに聞いてくれることがあります。
- ×「お願いください」（命令に聞こえる）
- 「いっしょに、あそびませんか？」（共感と提案）
- 【ちょこっと解説】
人は「動かされる」と思うと身構えますが、「いっしょに」と言われると安心感が生まれます。「二人で取り組む（サポート）」が、一歩踏み出すきっかけになります。

【ちょこっとお悩み相談：ちょこっと心の見える方】

- Q：つい、イライラして声が大きくなってしまいます…
- A：それはあなたが一生懸命な証拠です。
- イライラと、あ、今私イライラしてるな」と自分を察知し直してみてください。
- 客観視するだけで、不意とトーンが落ち、心に「ちょこっと」のゆとりが生まれます。

「〇とで頑張るぞい、東京女子医科大学・介護サポート面談室は、あなたの『安心基地』でありたい。実は今、お手伝いをしたい『提供会員さん』が、あなたの力になれる日をたくさん準備して待っています。相談者が少ないのは、皆さんの関わりが遠くまで届いていない証拠かもしれません。でも、もしも「介護」という言葉が少しでも心に引っかかったら……それは、私たちが「いっしょに」歩き出すタイミングかもしれません。大きな声でなくてもいいんです。「ちょこっと」お話しませんか？
介護サポート面談室は、ただの「ちょこっと」があなたの「はっと」になる場所を心がけます。「いっしょに、お持ちしています」とどんな相談でも、まずはお気軽にご連絡ください。どんなご相談でも、まずは、お気軽にご連絡ください。

令和8年スケジュールについて（予定）

- 5月～6月 提供会員 調理実習講習会
- 9月 提供会員 養成講習会・令和8年度 第1回スキルアップ講習会
- 10月 介護サポート 通達6号発行・女子医大祭 参加
- 1月 令和8年度 第2回スキルアップ講習会
- 3月 介護サポート 通達7号発行



お問合せ・ご相談窓口

東京女子医科大学 介護サポート（面談室）
受付時間：月～金 9:00～17:00（電話受付）お休日は曜日
電話（直通）：03-5312-5206 FAX：03-5312-5207 内線41361
〒162-8666 新宿区田代町 8-1 東京女子医科大学 巴女子学生会館3階
メールアドレス：kaigo-support.bm@twmu.ac.jp
HP: <https://www.piccolonet.org>

◆介護なんでも相談窓口 (Google フォーム) 実施

本事業の一環として、本学教職員を対象とした「介護なんでも相談窓口」(Google フォーム)を開設しています。実際の介護の困りなどはもちろん、具体的ではないけどちょっと聞いてみたいということまで「なんでも」相談可能です。女性医療人キャリア形成センターが窓口となり、本学常駐のアドバイザーと一緒にどのようにお力になれるか検討し、必要に応じて関連部署とも連携して対応しています。



◆介護講演会の開催

介護を身近に感じる機会を提供する為、介護講演会を開催しています。5回目となる今回は「介護体験を聞こう！語ろう！」をテーマに座談会を開催。参加者からは「家族の介護について、今後どのようなことが必要になるのか具体的に考えることができとても参考になった」との感想が寄せられ、より介護を身近に感じる機会となりました。



研究支援員制度における対象者範囲の拡大

特色型では、ライフイベントにより研究活動の継続や研究時間の確保が困難となった女性研究者や、これまでに十分な実績がある将来有望な女性研究者を支援し、研究活動をより活発にするため、研究者1名に対して支援員1名分の人件費を女性医療人キャリア形成センター基金等から拠出する「研究支援員制度」を創設しました。

本事業では、女性研究者に加え、女性研究者を支える男性研究者1名の支援枠を新たに設け、男性研究者を支援しています。(支援員の人件費は女性医療人キャリア形成センターより拠出)

2025年度
女性研究者を支える男性医学研究者対象
研究支援員制度
利用者募集のお知らせ

募集期間
2024年10月1日～
2024年11月29日(必着)

研究支援員制度
研究費の指分の中で研究の補助費を従う「研究支援員」を研究費上から1名を助成することになります。
助成できるのは1日4時間×週4日(16時間)が上限です。
支援員の人件費は女性医療人キャリア形成センターが負担します。

応募対象者
学費で・内職等で時給が低い、かつ
本学活動の女性医学研究者(専任教員等)のうち
・専任教員が大学の研究機関に所属している研究者
またはフルタイムで就業している者
・専任教員または専任者がいない者

応募方法その他
女性医療人キャリア形成センターのHP上にある
募集要項をご覧ください。
(お返事コードからお返事可能です)

問い合わせ先
女性医療人キャリア形成センター 女性医療・研究支援課
TEL: 03-2333-0112 (FAX: 03-2333-0166)
E-MAIL: cdc@bunmu.ac.jp
URL: <https://www.bunmu.ac.jp/university/cdc/w-support/>
※本学は令和7年度(2025年度)から研究費助成制度を改正し、専任教員以外も対象となります。

◆令和7(2025)年度(採択時の職位を記載)

- ・樋口智昭寄附部門講師(膠原病リウマチ内科学分野)

-研究課題: 強皮症線維化病態における疾患特異的PDEサブタイプの探索

V その他の活動

◆全国ダイバーシティネットワークへの参画

文部科学省と連携して女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取り組む諸機関をつなぐ「全国ダイバーシティネットワーク」の東京ブロックに参画し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開を図ることを目的とした活動を行っています。

◆学外講演

- ・第66回日本母性衛生学会総会・学術集会（令和7(2025)年10月11日）

講演内容：「東京女子医科大学における女性医療人のためのキャリア形成支援」

講演者：本多祥子准教授／解剖学（神経分子形態学分野）、ダイバーシティ環境整備事業推進室長

- ・東京都医師会「医学生、研修医等をサポートするための会 女性医師支援の最前線～多様なロールモデルとの対話～」（令和7(2025)年11月29日）


講演内容：「女性医師支援の最前線」

講演者：佐藤麻子特任教授／臨床検査科、女性医療人キャリア形成センター副センター長、女性医師・研究者支援部門長

<お問い合わせ先一覧>

●育児について (25 ページ)	ファミリーサポート室	人事課(院内保育所)
	03-5369-9075 または 03-3353-8112(内線 41152)	03-3353-8112 (内線 30114 または 30115)
	河田町 巴女子学生会館1階	河田町 総合研究棟 1階 事務局内

●介護について (26 ページ)	介護サポート	人事課(介護相談窓口)
	03-5312-5206 または 03-3353-8112(内線 41361)	03-3353-8112 (内線 30112 または 30113)
	河田町 巴女子学生会館 3階	河田町 総合研究棟 1階 事務局内

●上記以外の ダイバーシティ事業に ついて	女性医療人キャリア形成センター	センターHP 
	03-3353-8112(内線 30166)	
	cdc.bm@twmu.ac.jp	
	河田町 総合研究棟 1階	

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）
令和7年度報告書

発行 令和8(2026)年7月
編集 ダイバーシティ環境整備事業推進室
(女性医療人キャリア形成センター)
MAIL cdc.bm@twmu.ac.jp
URL <https://www.twmu.ac.jp/university/cdc/gender/>



学校法人 東京女子医科大学

女性医療人キャリア形成センター
ダイバーシティ環境整備事業推進室

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8 番 1 号

TEL : 03-3353-8112 (内線 30166)